

釜石地方森林組合青年部 はっばの会

岩手県釜石市

設 立 平成7年8月

会 員 男20人

年 齢 27歳～60歳 平均44歳

主なプロジェクト

- 木炭作成
- 異業種間交流（植樹、育樹）
- 挿し木苗9品種による当林業地適性木選出（次代検定林、スギ23年）

炭づくりによる人々とのふれあいを！

1. 地域の概要

釜石地方は釜石市、大槌町の一市一町から成り、陸中海岸国立公園の中ほどに位置している。当地域は、三陸沖という屈指の好漁場に近いという地の利を生かした沿岸漁業のほか、近代製鉄発祥の地としても知られる新日鉄釜石製鉄所と同所ラグビー部による“鉄の町”、“ラグビーの町”として有名である。

釜石地方の総面積は、釜石市、大槌町を含め約6万4千haあり、うち森林面積は5万7千haと総面積の89%を占めており、岩手県平均の77%を大きく上回っている。内訳をみると、民有林、国有林別面積では民有林約3万7千ha（66%）、国有林約1万9千ha（34%）となっていて、民有林については人工林率が45.6%と県平均43.5%を上回っている。人工林樹種別構成はスギ53%、アカマツ35%、カラマツ10%の順になっている。このほか、良質材生産や複層林造成のためヒノキの植栽も行われてきた。

2. 釜石地方森林組合青年部の結成と運営

当青年部は、昭和49年に釜石市林業研究グループ（会員50名）として発足し、昭和60年には釜石市森林組合と大槌町森林組合の合併に伴い釜石地方森林組合青年部として、各地域の山林所有者及び後継者を中心に60名の部員で活動を開始した。その後、林業を取り巻く厳しい経済状況により一時活動が停滞したものの、部員の活性化と林業に対する情熱を取り戻すため、平成7年に部員20名が結集し、釜石地方森林組合青年部として新たに活動を再開し現在に至っている。

活動に当たっては、釜石地方森林組合と釜石市から青年部育成費や林業経営後継者育成対策事業補助を受け、研究活動のほか、地域イベントへの参加や先進地視察等を行うなど、研鑽と交流を図っている。

3. 活動の状況

林業を取り巻く状況も、中国等のアジア地域の経済発展による影響を受け、久しぶりに国産材需給も回復の兆しを感じられるが、未だ十分なものとなっていないように思われる。このような中、当グループでは、釜石市や森林組合から受けている補助金に応えられる様なグループ活動とすべく、次に掲げる4点を基本に活動を行っている。

(1) 元気な地域の森林づくりに向けて ～健康な森づくり推進隊～

これまでは、優良材の生産を目的とした枝打ちや間伐作業を中心とした研修会を開催し、技術研鑽を図ってきたが、グループ会員所有以外の山林において、手入れ不足等による荒廃化が目につくようになってきた。

このような状況に対し、危機感を抱いた林業関係機関による対応策として、平成16年8月に釜石地方森林組合並びに県釜石地方振興局、釜石市、大槌町の林業関係職員からなる『釜石地方健康な森づくり推進隊』が結成されたが、当グループも同活動に参加し、友人・近所等への働き掛けを行い、間伐推進による地域森林の機能向上に取り組んでいる。

(2) 異業種団体との交流 ～環境保全に向けた取組み～

釜石市と遠野市との界に源を発する鶺住居川において、流域の豊かな

自然環境の保全を目的として、10年程前から河口部に近い釜石市東部漁業協同組合の青年部とで、『森』と『海』の青年部の交流を図るために交流会を開催している。交流活動には各関係機関を合わせると40名ほどが出席し、平成12年から始まった源流部への植樹や下刈等の保育作業を協同して行っている。

このほかにも、釜石地域の主要河川流域ごとに結成されている各「環境保全の会」による清掃等の活動にも積極的に参加するなど、地域内の環境保全への取り組みを行っている。

(3) 本格的製炭に取り組む！ ～地域とのふれあい～

グループ活動の経済的自立等を図る観点から、様々な品目について検討を行ってきたところ、環境問題への関心の高まりに着目し、『竹酢液＋竹炭』の製造を思い立ち、平成13年からドラム缶式炭窯による簡易製炭技術講習実演会を開催するなど、製炭技術の習得・向上に励んできた。試行錯誤を重ねるもののドラム缶式といった簡易・小規模な設備での限界を思い知らされる結果となったため、会員の多くから「本格的な炭窯を！」という声上がるようになった。

このため、平成17年に釜石市等からの補助金を活用して、念願の炭窯を釜石市甲子町内に設置した。炭窯築造にあたっては、これまでも交流のあった森林愛護少年団の児童とグループ会員により、ともに汗を流しながらも和気藹々の雰囲気の中で作業を行うことができた。

“無事”に完成して製炭作業を開始したものの、暫くして思ったように竹材が集荷できない状況に陥ってしまい、困窮していたところ、近隣の方からの広葉樹の風倒木処理をお願いされて処理する中、身近にある里山林の活用が“大事”であるということに気付き、“本格的な木炭製造”を行うようになった。

炭窯築造のほかにも、A&Fグリーンツーリズム実行委員会の協力を得て『窯だしイベント』を企画・実行し、地域内外の多くの人々と触れ合うことができた。

製造された木炭は、釜石市産業祭などの地域イベントにおいて販売し

ている。『釜石市丸ごと味覚フェスタ』の炭火焼コーナー燃料の殆どが当グループからの供給となっており、将に『地産地消』と、好評を博しているものの、更に研究を進めて良質な木炭を造りたいと思っている。

(4) 長伐期優良材生産を目指して ～次代検定林の調査研究～

長伐期優良材生産を目標として、昭和57年に釜石市有林1.25haを分収林契約し、「次代検定林」として挿木苗木を植栽し、管理・調査を行ってきた。内訳としては、県内の優良母樹からの挿木苗9品種（上閉伊5号、上閉伊8号、上閉伊11号、上閉伊1号、岩泉、宮古、栗原、秋田、岩手局）であったが、そのうち上閉伊1号については気象害により枯損消失したため、現在は8品種において成長量調査を行っている。

これまでの調査では「上閉伊郡11号」と「秋田」の経過が良好であり、中でも「秋田」は枝が細く枝打ちしやすい品種であることがわかってきている。間伐等の保育管理を実施しながら、今後も病害虫への耐性等を調査しつつ、優良品種について挿木苗の生産を検討していく。

4. 今後のグループ活動について（目標）

林業を取り巻く環境は、経済グローバル化といった世界経済の目まぐるしいほどの変化や地球温暖化に起因すると思われる異常気象の頻発など、一国や個々の林家の経営努力も無に帰すような困難且つ厳しい状況下にある。当グループでも、厳しい経営環境と高齢化等により、会員の減少が続き、一時、活動が停滞した時期があった。

このような中、これまで行ってきたような各々の林業経営改善を主眼とした各種研究会や先進地視察などの取り組みから、会の自立性の確保と地域との連携強化による存在意義の再確認が必要との思いに至った。このため、今後は『なぜ、森林や林業は必要なのか？』をもう一つのテーマとして取り上げ活動していきたい。具体的には、『木炭』という地域素材を通して、森林愛護少年団と海の少年団との交流をサポートや東部漁業協同組合青年部等との協働を行う中で、子供、大人を問わず啓蒙し環境問題も含め幅広い活動を行っていきたいと考えている。